

たぐし うき
田口シウキ遺跡

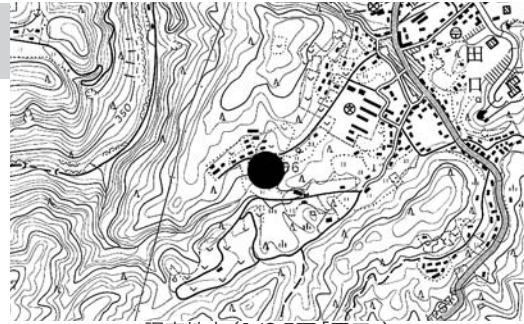
所在地 北設楽郡設楽町田口字シウキ
(北緯35度5分30秒 東経137度33分46秒)

調査理由 設楽ダム

調査期間 平成21年12月

調査面積 60㎡

担当者 鈴木正貴



調査地点(1/2.5万「田口」)

調査の経過 調査は国土交通省設楽ダム工事事務所による設楽ダム工事に伴う範囲確認調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成21年12月に実施された。県教育委員会の分布調査の結果、平安～室町時代の遺物散布地として新たに周知された遺跡であり、調査ではこれを受け1m×2mのテストトレンチを30ヵ所設定した。

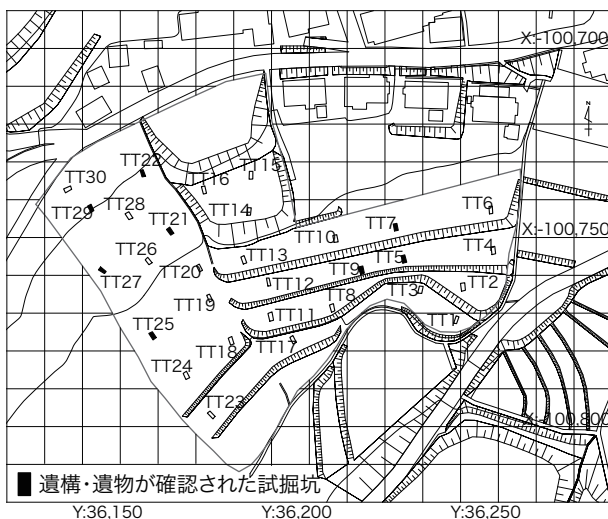
立地と環境 田口シウキ遺跡は田口盆地の南西側丘陵地の裾近くの南東向き緩斜面に立地し、江ク沢川に面している。標高は440～460mを測る。

調査の概要 調査は設楽町道町浦シウキ線よりも南側の部分で、住宅地を除く休耕田および植林帯を範囲とする。中央部のテストトレンチTT-5とTT-7とTT-9では、褐色粘土または礫の安定した地山上に土坑が検出された。また、西部のテストトレンチTT-22とTT-27とTT-29でも、地山となる礫の上面などで溝や土坑が検出され、TT-21で17世紀の陶器片、TT-25で19世紀の陶器片が出土した。これ以外のテストトレンチでは遺構や遺物は確認されず、激しく湧水する地点も認められた。

この結果、江ク沢川に流れる沢(谷地形)が調査区域の東端部と中央部と西端部にあり、その間に挟まれた舌状の微高地に遺構や遺物が展開していることが判明した。

まとめ 今回の調査では、江ク沢川に近い低地部に相当し、湧水が激しく居住には適さない区域が多かったといえる。その中でも微高地上にのみ遺構が広がっていることからみて、遺跡は町道町浦シウキ線よりも北側に広く分布するものと考えられる。

(鈴木正貴)



テストトレンチ配置(1:2000)



遺跡遠景